

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>地域と共に歩きたいとの意識はあるが、今はまだ難しい。</p>	<p>○</p> <p>ヒントをいただきましたので、今後地域に密着したグループホームを目指して地道に歩んでいきたいと思います。行事には地域の方もご案内したい。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>「明るく楽しくその人らしく」をモットーに、日々取り組んでいる。</p>	<p>○</p> <p>今後も忘れることなく、取り組んでいきたい。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>理念は理解していて地域と共にとは考えるが、田舎であり理解していただくには時間がかかる。</p>	<p>○</p> <p>地道な地域に根づいたホーム作りを目指していく。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>玄関前が広く安全なので、近くの子供の遊び場になっている。納涼祭、敬老会等に地域の方への呼びかけ、畑でできた花や野菜を食べていただいている。</p>	<p>○</p> <p>納涼祭に地域の子供が来てくれた。それでヒントをいただいたので、今後オフトーク等を利用して、近隣の方をご案内したい。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>小学校の運動会に行かせていただいているが、まだまだ孤立している感がある。</p>	<p>○</p> <p>ヒントをいただいたので、今後実施していきたい。幼稚園・保育所などをお願いにいきたいと考えている。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在はできていない。	○	今後、職員が増え、状況や力量がついてきたら、取り組んでいきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	改善できるところはしているが、元に帰るのが早い。	○	職員の意識改革に取り組みたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的にミーティングを開いている。状態が変われば、すぐ対応するようにしている。サービスの実施等については報告している。	○	非常によい案が出てきているが、なかなか実施が難しい。日にちが合わなかったり、職員がいない等で、できないが、話し合い、実現に向けて取り組んでいきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	保健所や町に行くと、質の向上のヒントはいただけるので、助かっている。	○	いつでも気軽に相談にいききたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度の研修はできていない。	○	今後、行っていく予定である。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修は、できていない。	○	今後、行っていく予定である。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居以前にホームの内容説明をし、金銭、介護などの質問については、細かく納得されるまで説明している。持ち帰って、家族、兄弟で相談し、納得していただいている。	○ 今後も今の方法で、継続していきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱や苦情受け箱を設けている。苦情が合った場合には、職員にも説明し、家族とも話し合いの機会を持つようにしている。	○ 利用者はもちろん、家族の方にも安心して、利用していただけるホームを目指したい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	隔月ごとに、かりんの郷便りに近況報告をつけて、家族に送付している。	○ 職員等の異動については報告できていないので、今後報告するようにしたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情があった場合には、管理者が家族と話し合い解決に向けている。第三者委員に相談するような苦情は、今のところ出ていない。結果は職員に周知している。	○ 今後、苦情などがでないホームを目指して運営したい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、話し合いの場を持っている。業務の中で出てくる意見については、職員と相談しながら対応している。	○ 活発な意見が出るようになればと思う。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	その時の状況に合わせて対応している。	○ 今後も継続していく。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職の場合には、説明はしている。家族の方には、来られた時に紹介するようにしている。	○ 隔月に出している、かりんの郷便りの内容を見直していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員育成の体制は整っていない。</p>	<p>○</p> <p>一番大きな今後の課題である。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>職員研修には参加の機会を作っている。</p>	<p>○</p> <p>研修したことを職場研修に報告して、皆で共有している。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>話を聞いたり、相談にのったりしているが、軽減になっているかは分からない。</p>	<p>○</p> <p>まず自分の力量アップに努めたい。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>頑張っ資格が取れた場合等には、ねぎらいの言葉をかけているが、なかなか難しい。</p>	<p>○</p> <p>もっと職員に寄り添いたい。</p>
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所してしばらくは本人も不安があるので、日常生活において相談にのったり、行動をともにしたりして、関係作りに努めている。</p>	<p>○</p> <p>継続していきたい。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談に来られたらグループホームの説明をし、質問には納得するまで話し合いをしている。入所後は、家族も不安があるので、面会時には日常生活の説明をしたり、来られない方には電話で連絡したり、生活上不足している物品については依頼して、持ってきていただいている。</p>	<p>○</p> <p>継続していきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	仏壇を持ってくることについて相談があった。了解して持ってきている。始めは、本人が毎日食事と花を供えてたが、今は職員が備えている。家族の方も満足してくれている。	○	一人ひとりの要望や希望を把握して、本人や家族が共に喜んでいただける道を常に考えていきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	その方の状態を見ながら、自室で食事をしていただきながら、相性の合いそうな方とともに食事をするようにし、少しずつ慣れていただくようにしている。	○	家族の協力を得ながら、慣れていただくようにする。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理は無理だが、野菜作りには本領を發揮して、ともに楽しんでいる。年ごとにできることが少なくなってきた。	○	一品料理を目標にしているが、現在の利用者では調理はできにくい、一品料理は目標である。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時には、食事介助などは家族の方に協力していただいている。寝たきりの方が外出する時には、応援を頼んでいる。	○	喜んでくれるので、今後も実施していく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族が面会に来られると、居室に案内して湯茶を出し、ゆっくりしていただいている。	○	喜んでくれるので、今後も実施していく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族の方は来られているが、馴染みの場所については、家族に引き継がれている。親戚の法事には出かけられる方もいる。	○	まだまだ田舎であり、父母を大切にしている。地域の行事の参加に家族が来られて相談している。今後も家族と協力しながら、地域社会と交わっていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	耳が遠くてコミュニケーションが大変である。利用者同士が関係を築いて支えるグループホームには、現在の利用者では難しいように感じる。	○	聞こえにくい方には、職員が中に入って、コミュニケーションを取るようにする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	最近の退居者は死亡である。	○	死亡退去の家族も花を持って来てくれたりする事がある。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話をしている、本人や家族から出てきた要望については、本人、家族と相談し、協力も得ながら具現化するようにしている。	○	もっと情報収集できたらと思う。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	高齢になり、利用したら何もしたくないと言われる方もおり、馴染みの暮らしが提供できにくい、仏壇のお参りをされる方がいるので、一緒に座って参っていただいている。	○	仏壇参りは喜ばれている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	今は暑いので横になったりして過ごしていて、レクリエーションの声をかけても動こうとしない。歩行可能な方は、できる限り、手引きで誘導している。	○	レクリエーションを充実していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を作成する時には、本人や家族と相談して、作成するようにしている。	○	継続していく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護の必要が生じた場合には、本人や家族の意向を聞き、職員と話し合い、現状に合った介護を早く提供するようにしている。	○	継続していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	まだ職員も未熟であり、観察力や気づきができにくい。	○	介護技術の向上に努めたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ケアハウスとともに、納涼祭や敬老会等の行事を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署と協働で、防火訓練をしているが、今のところ、なかなか難しい。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスの提供も良いが、家族の負担が増えるので実現しない。	○	今後の課題である。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	田舎なので家族が協力してくれるため、今のところ、地域包括支援センターに依頼する問題は出てこない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医については、家族と相談している。入院になったら、かかりつけ医から家族に説明してくれている。	○	今後も継続していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要になったら、毎週土曜日に専門医が来られるので、治療や相談にのってもらえる。必要なときは、病院への受診の付き添いをしている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力医院に連絡すれば、相談にのってもらえる。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院したときには面会に行ったりしながら、家族や看護師から説明を受けたりしている。	○	今後も継続していく。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期になった場合には、本人や家族の意向を聞き、担当医とも毎日報告し、相談をしながら対応している。	○	週末には家族の付き添いや介護を受け入れている。面会は、夜間も受け入れている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	職員が状況を共有して、チームで連携を取りながら、援助している	○	見守りの機会を増やし、常に職員が見守るようにしている。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	最近事例はないが、あれば話し合いや、情報交換をしながら関わっていく。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけには注意している。個人の記録は漏れないように、取り扱いには気をつけている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の要望などは、ゆっくり聞くようにしている。季節の野菜や小動物を見ていただくと活性化されることがあるので、問いかけるようにしている。	○ 良い刺激は脳の活性化にもつながるので、勉強していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	高齢になり、なかなか自分のペースで生活することができ難くなってきている。金魚の餌やり、野菜作りや収穫は楽しみにしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	望む店がある方には付き添っていくが、そのようなこだわりを持っている方は今はいない。話し合いの中で決めている。	○ 望む美容院に付き添っていく体制はある。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	去年は共に調理もできていたが、今年ではできる人がいなくなった。	○ どのように対応したらよいのか考えている。皆で考えたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	日常的ではないが、嗜好品は聞いて対応するようにしている。	○ 飲み物のレパートリーを増やしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	なるべくトイレでの排泄を心がけている。	○	トイレでの排泄を支援していきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の声かけをしている。時間帯は、夏は朝から夕方まで入浴できるようにしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	食後には昼寝をする人もいるが、フロアで過ごしている方もいる。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味やレクリエーションを楽しめる利用者が、少なくなってきた。	○	なかなか時間はないが、レクリエーションを充実していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	店に行くときは持って行く利用者もいるが、話しても持とうとしない利用者が多い。	○	もっと外出の機会を増やしたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出を希望する利用者には、一緒に戸外に出かけている。	○	もっと外出の機会を増やしたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	面会の時には、家族とともに食事に行ったりしている。毎週外出する利用者があり、2週間に3日ほど自宅に帰られる方もいる。	○	寝たきりの方で、皆と一緒に行動できない方を、家族の協力を得て近くにドライブに行き、大変喜ばれた。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話をかけたりしている。今は手紙は書ける利用者はいない。	○	刺激を受けることはよいと思うが、職員数の問題もあるので難しい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも面会は、できるようにしている。面会者が来られたら自室に案内して湯茶で接待し、ゆっくり過ごしてもらっている。	○	継続していく。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないことを目標にしている。必要なときには、職員が一人付き添っている。	○	点滴をしても、職員が付き添っている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵はかけていない。裏庭にも出られるようにしている。	○	人が入ってくると言われる利用者には、話し合いの上で、部屋を留守にする時には鍵をかけている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	玄関のチャイムが鳴ったら、必ず確認し、目配り、気配りに気をつけている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険物や薬等は、一人ひとりの必要に応じて、保管、管理をしている。高価なものは、家族に持って帰ってもらっている。	○	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	車椅子、自立歩行、徘徊などを、職員は把握していて、利用者に応じた介護を目指している。	○	その時に応じて、説明している。勉強会をしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変や事故などで、ヒヤッとしたとき等の機会を通して、対応方法を説明している。	○	今後勉強会をしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、避難方法を利用者ともども訓練している。	○	
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族には話している。事故についても説明すると、「それはどこにいてもあることや」と言う家族もいる。	○	
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	異変があれば職員と相談し、バイタルを図り、必要なら医院に連絡し受診する。その際、家族に連絡している。	○	毎日バイタルを計り、体調の確認をしている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬の説明書をファイルに入れ、確認するようにしている。	○	状態については、医師に報告している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便は管理している。運動ができていない。	○	業務に追われるのではなく、レクリエーションを充実させたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔清潔に気をつけている。	○	今後も継続していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は、ある程度、その方の食事、水分などを把握しており、気配りしてくれている。職員同士相談しながら、対応している。	○	今後も継続していく。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルはある。インフルエンザの予防接種はしている。食器消毒、食膳の手指消毒の実施を実施している。	○	今後も継続していく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	買ったらすぐ冷蔵庫に保存している。調理用具は消毒している。	○	今後も継続していく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前に椅子を置き、一休みができるようになっている。季節の花を植えて、明るい雰囲気が出るようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾り、季節感を味わっていただくようにしている。窓を開け、換気するように気をつけている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲のよい友人と気兼ねなく食事ができるように、配慮している。問題があれば、その都度検討し、相談のうえ、場所を換えしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	布団などは持ってきていただいている。仏壇を持ってきている方もいるが、家から持ってくる人は少ない。使い慣れた物の持ち込みもなかなかできない。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日換気している。	○	今後も継続していく。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり、車椅子、シルバーカー、手引きと誘導に、一人ひとりの個性が出ている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	穏やかに、ゆっくり、はっきりと話しかけ、できることはしていただきながら、できないところを援助していく。	○	今後も継続する。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花を植えたり、野菜を作ったりして楽しんでいる。	○	農家の人が多く、畑仕事は教えていただいている。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
			②数日に1回程度ある
		<input checked="" type="radio"/>	③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		<input checked="" type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		<input checked="" type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
		○	③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

現在胸を張ってアピールできるものはありませんが、再生に向けて頑張ろうとの気持ちは持っています。